



つるまきだ

親鶴はびっくりしてひなを巣へかえそうとしましたが、どうしてもできません。鶴がこまっているところへ、山から家へ帰ろうと、ひとりのおじいさんが通りかかりました。おじいさんは、鶴がこまっているのを見てかわいそうになりました。

ひなを拾い上げて木の上を見ると、ずっと高いところに巣が見えます。おじいさんは木のぼりの名人でしたが、こんな高い木にのぼったことはまだありません。でも、こまっている鶴を見ていると、ひなをなんとかして助けてやらなければという気持ちでいっぱいになりました。おじいさんは勇気をだして木へよじのぼり、やっとひなを巣へかえしてやりました。



こんなことのあったあくる年、村は大飢饉におそわれました。すっかり食べるものがなくなった村人は、種にしようとして大切にとっておいたタネモミまでも食べつくしました。村では春になっても種まきができません。すると、どこからか鶴が飛んできて、田んぼに種をおとしていきました。

秋がやってきましたするとどうでしょう。鶴がまいた種がりっばに実り、村人は鶴のおかげで救われました。うえ死にしないでもすんだのです。

村人は、この鶴を神様の鶴として大切にするようになりました。そして、鶴が種をまいた田といういわれで、この田に「つるまきだ」と名をつけました。これは、今でも中里に残る昔ばなしです。

ずっと昔のことです。中里の宇佐八幡宮の境内に、昼でも木の下はうすぐらい大きな松の木がありました。その松の木へどこからか鶴が飛んできて卵を生み、ひなをかえしては育て、寒くなるころまたどこかへ飛んでいってしまいますある年のことです。いつものように鶴が飛んできて卵を生み、ひなをかえました。ところがある日のこと、どうしたはずみか、ひながいち羽巣から地面へ落ちてしまいました。



吉原市民会館で母と子の音楽会

3月26日、吉原市民会館ホールで、母と子の音楽会を開きま



した。広いホールも、チビッコ達で満員。

第1部は、エレクトーンの演奏、とても静かに聞いていました。第2部は、真理ヨシコさんの歌とお話。春よこい、どじょっこふなっこ、1年生になったらを、みんないっしょに大きな声でうたいました。



よかつた市政教室

田子浦小
4年

高山剛一



ぼくは、親と子の市政教室に参加して、富士市のいろいろな施設や、そこで働いている人達のすがたを見ました。

自然の中で、大きく広がる富士山を見ながら遊べる丸火自然公園。ごはんを食べてから、力いっぱい遊びました。

また、清掃工場ではおじいさん達がぼく達の家から出るゴミをかたづけしてくれました。ゴミをつぶす所でぼくが「くさいなあ」といったらお母さんが「こういう所で働いている人達が、いちばん大変だよ」と、いいました。

ぼくは、3年生のとき富士市について教わり、4年生では歴史を少しならってました。でも、きょうの市政教室で、今まで気がつかなかったこともわかって、とってもよかったです。と思いました。